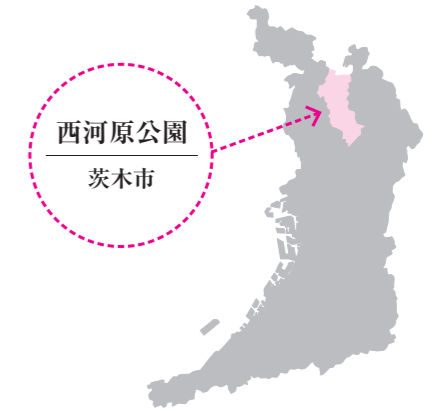


うちの近所 コレイチ

わが町 自慢紹介 75



世代をこえて楽しく 過ごせる憩いの場

1941年に氾濫を繰り返す茨木川の付替え工事が行われ、安威川も直線化・拡幅されました。その時残された安威川の旧流路・堤・河川敷の樹木や竹やぶ、用水路をそのまま活かした自然豊かな公園で、1989年には「大阪緑の百選」にも選ばれています。

防災機能を備えた総合公園 「ホタル観賞会」の開催も

2015年度までは、茨木市がゲンジボタルの人工飼育にとりくんでいました。毎年6月頃には「ホタル観賞会」が開かれています。様々な野鳥のほか、蝶やカワトンボなどの昆虫の姿もみられ、小川には小魚が泳ぎ、市街地のなかでの小動物の楽園となっています。2012年度から防災機能を備えた総合公園として拡張・開設されています。



ほぼ垂直のジャンプすべり台は子どもが大喜ぶするスポットになっています

楽しい遊具に 家族連れでにぎわう

家族連れも多く、アスレチック広場や「石の山のジャンボすべり台」などの楽しい遊具があり、休日には多くの子どもたちでにぎわっています。



現在は、飼育は行わず自然生息の調査がすすめられています。

Culture Navi かるちなーび

材料（4人分）

■牛肉60g、にんじん20g、ぜんまい水煮60g、ふき水煮60g
（調味料）酒4g、濃口しょうゆ12g、砂糖8g、菜種油0.8g

作り方

- ①にんじんは3ミリ×3ミリの千切りに、ぜんまい水煮は3センチ～4センチくらいに切り、ふき水煮は2センチくらいに切る。
- ②油を引き、牛肉を炒める。
- ③にんじんと水煮のぜんまい・ふきを加え炒める。
- ④調味料で味付けをする。
- ⑤水分がなくなるまで煮炒め、できあがり。

自然の恵みの山菜（ふき・ぜんまい）を使った旬のおいしさを味わってください。水煮を使うとお手軽にできますよ。

シャキシャキとした食感と さわやかな薫り



作りませんか



ぜんまいと
ふきの炒め煮
交野市職労 国武 裕次さん
協力：現業評議会・給食部会

今月の
記念日
図書館記念日
4月30日

戦前・戦中は「図書館令」「出版法」の改正により、特定の著者への執筆禁止や、警察からの「閲覧禁止図書」通知により、戦争に都合の悪い図書は市民に提供されなくなっていました。戦後、1950年4月30日「図書館法」（社会教育を目的として地方公共団体または公益法人等が設置する公共図書館について規定）が公布されました。日本図書館協会が「それを契機に日本の図書館活動は新しく生まれ変わった。公共図書館の機能が明らかにされ、無料原則がうたてられ、真の意味での近代的な公共図書館の時代をむかえた」として、1971年の全国図書館大会にて、その日を「図書館記念日」と決議しました。

1616ビジネスファクトリーが えいが



計報記者へ舞い込んだ依頼は、
（最低）な老婦人の
（最高）なおくやみ欄を
生前に作ることに。

「あなたの旅立ち、綴ります」

年齢もキャリアも全て違う 2人がもたらす人生の綴り方

洋の東西を問わず高齢化が進む時代、映画の中で高齢者が輝いています。年齢を重ね、凛として生きる姿に心を揺さぶられる、そんな女性が主人公のアメリカ映画を紹介します。

ビジネスで成功したハリエットは、今は何と自由な老後を送っています。80歳を超え人生の終わりが近いことを悟った彼女は、生前に理想的な計報記事を書いてほしいと、若い女性記者アンに依頼します。ところが、すべて自分の意のままにコントロールしないと気がすまない性格のハリエットのことを良く言う人は一人もおらず、当然ながら、できあがった原稿は理想とは程遠いものでした。「最高の計報記事」のために、誰かの人生に影響を与える人物となり、人の記憶に残る何かをやり

遂げようと、ハリエットとアンの人三脚が始まります。年齢が離れ、性格も正反対な二人がぶつかり合うシーンは愉快です。次第にハリエットは自分の人生に欠けていたものに気づき、本当の自分を取り戻します。そして、彼女のそんな生き方は引込み思案のアンの人三脚をも変えていくこととなります。

始めは最低の女だと思ったハリエットですが、女性の地位が低かった時代に社会に出て、自分にも周りにも妥協せず、真つぎ生きてきた彼女のパワーにいつしか共感してしまいました。そして人生の最後になって、懸命に変わろうと努力する姿にも…。

ハリエットを演じるのは、大女優シャーリー・マクレーン。さすがの演技力、キュートな魅力は衰えません。

平成が戦争のない時代として
終わろうとしていることに
心から安堵しています
明仁・今上天皇（1933年～）

昨年12月20日、同月23日で85歳の誕生日を迎えるに先立って行われた記者会見での言葉です。会見では、4月末の退位をふまえ、皇太子時代から現在までの歩み、先の大戦を踏まえた平和への思い、自然災害などについて言及されました。また、沖縄がたどった苦難の歴史に触れ、「沖縄の人々が耐え続けた犠牲に心を寄せていくとの私どもの思いは、これからも変わることはありません」と話されました。

心に響く
このひとこと